



明けましておめでとうございます。

力を合わせて、学校と教育を変えていきましょう

枚方教職員組合 執行委員長 有馬昌代

コロナ感染拡大の中で

何とか収まっていたコロナが、年明けから猛威を振るい、懸念されていた第6波に突入してきています。特に沖縄や山口で感染者が激増したことは、アメリカ軍基地との関連が指摘され、あらためて、私たちの生活と国や国同士の関係のあり方を考えさせられずにはいられませんでした。

昨年は突然の「ハイブリッド授業」によって、現場が大混乱となりました。経験してみても、やはり子ども達と対面で授業することは楽しいし、学力を保障することができるかと確信しました。

コロナ禍の中でも、子どもたちの成長を実感しながら、学校生活を続け、卒業式・修了式まで一緒に過ごせるようにしていきたいと思っています。

学校と教育をめぐる大きな動き

さて、新しい年を迎え、皆さんは目標を立てたりしましたか？枚方教職員組合は、人間らしい生活の中でやりがいを感じられる働き方の実現、それに密接にかかわる少人数学級の拡大と学力テスト・すくすくウォッチ・チャレンジテストの廃止のとりくみを進めていきたいと思っています。また、「新冷戦」と呼ばれる世界の危険な動きを転換させて、個人と人権の尊重を軸とする私たち国民の大切な憲法を守り発展させていきたいと思っています。

タブレットが導入されたことで、教育現場は、大きな変化の時を迎えています。一方でGIGAスクール構想のもと、本人も保護者も知らないうちに、子ども達の個人情報私たちが教師の手によって企業に渡されるようなことはあってはいけないと思います。

学校のあり方と働き方を、力を合わせて変えていこう

私たちが働く教育現場には、いろいろな課題があります。

多忙化と現場の教員不足、「穴あき」の中で、教育困難の広がり、時間外手当もなく「定額働かせ放題」の問題、教育委員会から下ろされてくる課題への対応・・・。

枚方教組は、「ハイブリッド授業」問題への対応、長期休業中のテレワークの適用、「免許更新制」廃止と危険な新制度、市教委からの課題見直しのとりくみなど、組織が大きくない中でも積極的な取り組みをしてきました。

力を合わせることで変化は起こせる

一人一人は弱くても、力を合わせることで変化を起こすことは可能だと実感してきました。この取り組みの輪の中にもっともっとたくさんの方が加わることで、今以上に取り組みが展開できることは明らかです。

私たち枚方教組は、あなたと力を合わせて、学校という職場が、子どもたちにとっても、教職員にとっても、安心していただける場所になるよう活動していきます。

2022年が、たくさんの仲間を迎えて、より良い活動ができる一年になることを願って、新年の挨拶とさせていただきます。今年もよろしくお祈りします。

全教（全日本教職員組合）の枚方教職員組合のニュースです

2021年枚方教組はこんな取り組みをしてきました

- ① 教職員をまもるコロナ感染防止に取り組んで来ました
 - 検査の拡充やワクチン優先接種の実施を求めてきました
 - ワクチン接種にかかわる職免や在宅勤務の適用を求めて実現されてきました
- ② 「免許更新制」廃止に向けて1年を通し手取り組んで来ました
 - 1月から更新期限の注意を呼びかけるとともに、廃止を求めてきました
 - 廃止後の新制度の危険性、問題点をいち早く取り上げてきました
- ③ 少人数学級の拡充を一貫して求めてきました
 - 2月に枚方市独自の少人数学級拡充の要望書を提出しました
 - 国の35人学級拡充で、市独自の小5への35人学級を強く求めてきました
- ④ ICT・タブレット活用の学習会とともに、問題提起も積極的に展開
 - まなび庵で3回にわたりタブレット活用の学習会
 - 「立ち止まって考える」など本来のあり方を問題提起してきました
- ⑤ 突然の市長の「ハイブリッド授業」方針の問題点を取り上げてきました
 - 現場の教職員の声を元に、批判を展開、
 - 市教委へ混乱への対応求める要望書を提出しました
- ⑥ 市教委、文科省の教育施策をいち早く知らせ、問題を指摘
 - 市教委、小学校授業時数増加、全国学テ自校採点、夏・冬休み短縮問題
 - 市教委、水泳授業民間委託、中北・高陵小統合問題
 - 文科省、22年度小学校教科担任制方針をいち早く取り上げ問題点を指摘
- ⑦ 働き方改革、残業手当のない給特法問題を取り上げる
 - 多忙化対策に、市教委課題の削減、学校の裁量権の尊重を繰り返し求めてきました
 - 埼玉教員残業手当訴訟で給特法の問題を取り上げてきました

だまっけていても、苦しくなるばかり

力を合わせ、声を上げれば変えられる

あなたも枚方教組に!!

私たちの枚方教職員組合は、決して大きな組織とは言えません。それでも、これだけの取り組みを進めてきました、もっともっとたくさんの方が加われば、もっと大きな取り組みが出来て、もっと大きな変化を生み出すことが出来ることは明らかです。

職場の声を集めて交流し合い、みんなで力を合わせて声を上げて、その輪を広げていくことで、さらに大きな力を生み出せます。

ぜひあなたも枚方教組に加わって、一緒に取り組みましょう。

枚方教組に加入して学校や働き方を変えていきましょう

府費の常勤・非常勤講師の特休などが前進

「穴あき」対策の「事前任用」拡大方針

大教組の府教委交渉で「事前任用」検討に言及

12月15日の大教組本部交渉において「穴あき」の解消につながる前進的回答がありました。大教組の「産休がわかっている教職員の代替を年度当初に事前任用するなどの具体的な措置をとるとともに、起こっている事態については早急に解決すること」という要求に対し、府教委は、今年から20人の小学校対象の事前任用を行っています

「年度途中からの講師確保が困難になっているために、この制度の継続を強く希望したい」、「中学校導入を検討してほしい」という声などが市町村からも上がっており、大教組は「その声を受けて20人以上の配置を求める」と要求しました。

府教委は「令和4年度は年度当初から夏季休業の前日の期間に産前休暇を開始する教諭を対象とした事前任用の実施を検討している」、「また、教科等の不一致が生じることがないことから、小学校に加え、中学校においても実施することを検討している」と回答しました。

府労組連の要求が実現！ 府教委が常勤・非常勤の特休見直し提案

不妊治療休暇(=出生サポート休暇)が有給に！

非常勤職員配偶者の出産休暇・育児参加の休暇(有給)を新設

12月15日府当局は、国人勸を受けた人事院規則の一部改正を踏まえ、「職員の特別休暇の見直しについて」の説明・提案を大教組も加わる府労組連に対して行いました。

これまで無給で6日間あった「不妊治療休暇」を、有給の特別休暇とし、日数は1年につき5日、名称も「出生サポート休暇」と変更するものです。

出生サポート休暇の日数が6日から5日になる点や、診断書の扱いについて、さらなる検討を大教組として求めています。今後府として最終決定した上で、4/1から適用される予定です。

なお枚方の市費講師(任期付き職員)、非常勤講師(会計年度任用職員)についてはすでに同様の制度が決定、職場に通知されています。

1. 府費常勤職員の不妊治療休暇

- (1)有給の特別休暇に見直す。
- (2)付与日数を1年につき5日(体外受精及び顕微鏡受精に係る場合は10日)内に見直す
- (3)休暇の名称を出生サポート休暇へ変更する。

2. 府費非常勤職員(会計年度任用職員)の特別休暇

- (1)産前産後休暇を有給休暇へ見直す。
- (2)有給の配偶者の出産休暇(2日以内)及び有給の育児参加の休暇(5日以内)を新設する。
- (3)不妊治療のための有給の出生サポート休暇を新設する。
(1の年度につき5日(体外受精及び顕微鏡受精にかかる場合は10日)の範囲内)

1/13(木)大阪府中学生チャレンジテスト(1・2年) 「団体戦」(学校平均を内申点反映)で教育ゆがめる

1月13日の木曜日に中学校1・2年生の大阪府チャレンジテストが実施されます。大阪府の中学生チャレンジテストは、年1回だけの統一テストの学校平均点を、生徒の高校内申点に反映させるという全国的にも例のない制度で、各学校の授業や教育のあり方に大きなゆがみが引き起こされています。

学校平均で内申点が大きく左右される

高校入試の内申点が学校ごとの基準でつけることでばらつきが出るとして、大阪府はチャレンジテストの名前で統一テストをおこない、学校平均を評定に反映させるとしてきました。

しかし学校によって平均が異なるために、学校でつけた評定を下げなければならない例や、学校の評価より高く補正される例が毎年起こっており、このことを見越して学校のテストや評価の仕方を初めから「調整」することも広がっています。

「学力調査」は評価に反映させてはならない

吉村大阪市長、松井府知事(ともに当時)は、当時全国学力テストの学校平均を反映させようとして、文科省から「不適切」と指摘されて断念しています。これは、「学力調査を評価に反映してはならない」当たり前の道理からの指摘でした。入試に直結する評価に反映することで本来の「学力調査」の趣旨がゆがめられ、得点競争に子どもや学校を駆り立てる弊害があることからの指摘です。

しかし、大阪では独自のチャレンジテストの学校平均を反映させており、まさに道理をねじ曲げた教育行政と言えます。

教育のあり方を大きくゆがめる 廃止・撤回の声をさらに大きく

このチャレンジテストの仕組みで、テストが苦手な生徒を「足を引っ張ってしまう存在」と思わせてしまう状況や、これを反映するような否定的な事象も府下各地で聞かれます。子どもたちを競争、分断させてしまうような、教育のあり方とかけ離れた事態を引き起こしていると言えます。

また、内申点に反映するため、現場の教員は、事前指導や冬休みの宿題を増やさざるを得ない状態に心ならずも追い込まれてしまいます。

12月23日に大教組も加わる「子どもと教育・文化を守る大阪府民会議」が「廃止・撤回を求める要請書」約4000筆の第1次署名提出をおこない、保護者や各団体から、反対意見とともに保護者の困惑、学校現場の実態を訴えました。

小学校の「すくすくウォッチ」とともにチャレンジテストの配置・撤回を求めて、さらに声を上げていきましょう。

新春まなび庵 クラスレク・ミニゲーム講座

1月22日(土)15:00 ラポール枚方 3F 研修室1 資料代300円

明日からすぐに使えるクラスレクや隙間の時間にできるミニゲームなどを教えてもらい実際にみんなで一緒に実践してみましょう♪また、参加者からの持ち寄りネタも交流できたらと思います。みんなでワイワイ楽しんで引き出しを増やしませんか。是非ご参加ください。どなたでも参加出来ます。当日参加歓迎!